

(1)保存地区の概要

地 区 名 南さつま市加世田麓

種 別 武家町

面 積 約20.0ヘクタール

選 定 年 月 日 令和元年12月23日

特 徴

南さつま市は、薩摩半島の南西端に位置し、加世田麓は、地域の北部、加世田川西岸の独立丘陵と台地に挟まれた南北に細長い平坦地に位置する。

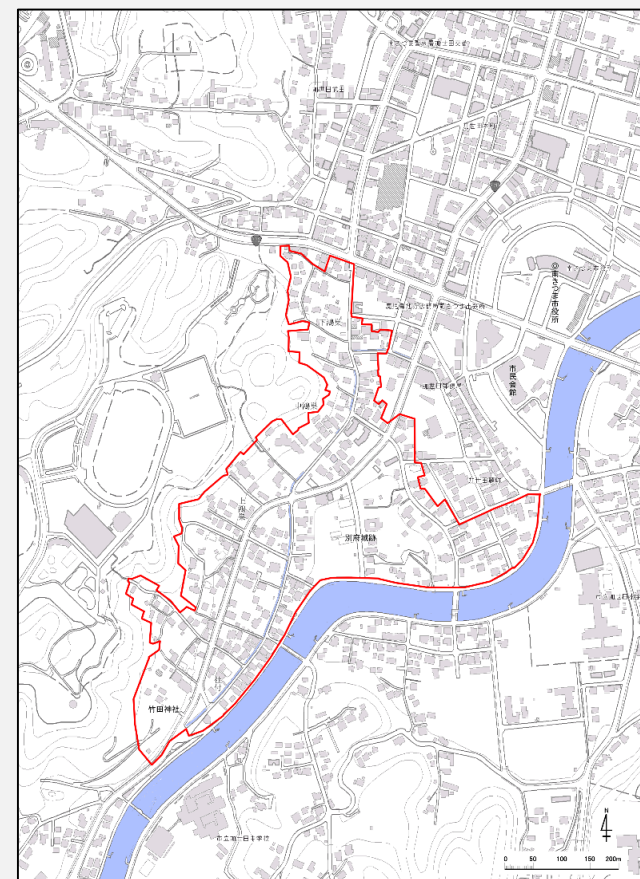
南さつま市加世田麓伝統的建造物群保存地区は、中世以来の山城周辺に形成された武家地を起源とする麓であり、自然地形に沿って曲線を描く街路や地割は近世以来の姿をよく留める。近世の武家住宅やその形式を引き継ぐ主屋をはじめ、益山用水とそこに架かる石橋、敷地を画する石垣や生垣、腕木門などとともに、地形を巧みに活かして形成された麓の独特な歴史的風致をよく伝えている。



益山用水



石橋・石垣・腕木門



保存地区の範囲

(2) 保存地区のあゆみ

平成20年度(2008)	旧鯉坂正一郎邸の保存運動が住民等から起こる
平成21年度(2009)	住民・NPO・大学による旧鯉坂正一郎邸の応急修理 旧鯉坂医院が登録有形文化財となる
平成22年度(2010)	住民から市に、旧鯉坂家住宅の保存について要望が出される
平成23年度(2011)	鯉島(健志)家住宅・鯉島博家住宅が登録有形文化財となる
平成24年度(2012)	旧鯉坂正一郎邸を市が取得 町並み保存団体「かせだ歴史まちなみ懇話会」発足
～25年度(2013)	南さつま市加世田地区伝統的建造物群保存対策調査(26年3月報告書刊行)
平成25年度(2013)	旧鯉坂家住宅(旧鯉坂正一郎邸)が国登録有形文化財となる
平成26年度(2014)	懇話会から発展し、かせだ歴史まちづくり協議会発足
平成27年度(2015)	かせだ歴史まちづくり協議会を中心に「加世田麓まち歩き」が始まる
平成29年度(2017)	南さつま市伝統的建造物群保存地区保存条例施行
令和元年 (2019)	国選定官報告示「重要伝統的建造物群保存地区」となる



旧鯉坂家住宅の屋外・屋内意匠(赤壁・床・欄間) (国登録有形文化財)

(3) 保存地区の保存と整備

保存地区は、江戸期から昭和期までの建築が重層的に見られ、市街地化の影響を受けながらも、武家門やイヌマキの生垣・石垣で区画された屋敷構え、自然地形に沿った馬場・小路、さらに益山用水・井がわなど、独特の歴史的風致を今に伝えている。

これらの風土を守り伝えてきた保存地区の住民、技術者・職人に、広く市民、NPO、各分野の学識経験者などが協力して、保存地区の伝統的建造物群及びこれらと一体をなす環境を「生きている町並み博物館」として保全に努める。



加世田麓の町並み

(4) 保存地区の活用とまちづくり

加世田麓と周辺地域との連携により、文化資源を活かした歴史まちづくりに努める。

市民・関係団体と行政とが協働して、市民ぐるみで「生きている町並み博物館」の永続的な保存と歴史風土に根差したまちづくりに取り組む。



益山用水と生垣

(5) 住民等の取組

保存活用団体による麓まち歩きなど「生きている町並み博物館」魅力発信



加世田麓まち歩き